

シスター・サラ

本当に一人で大丈夫ですか

神父様!



ご心配には及びません

二日で戻りますので

私はサラ  
この教会でシスターとして暮らしています

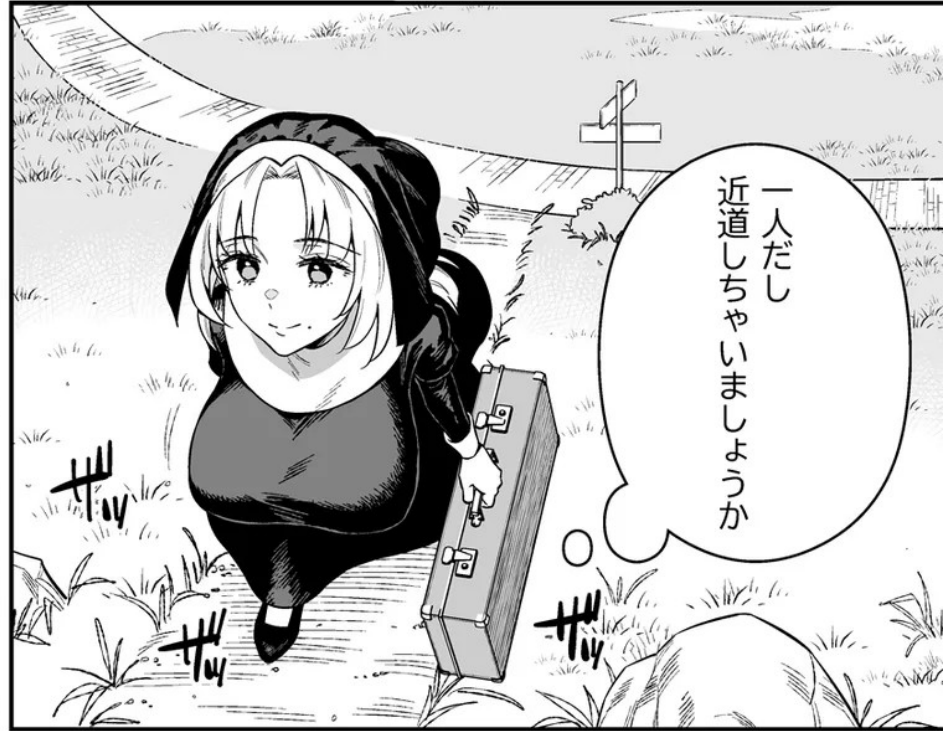
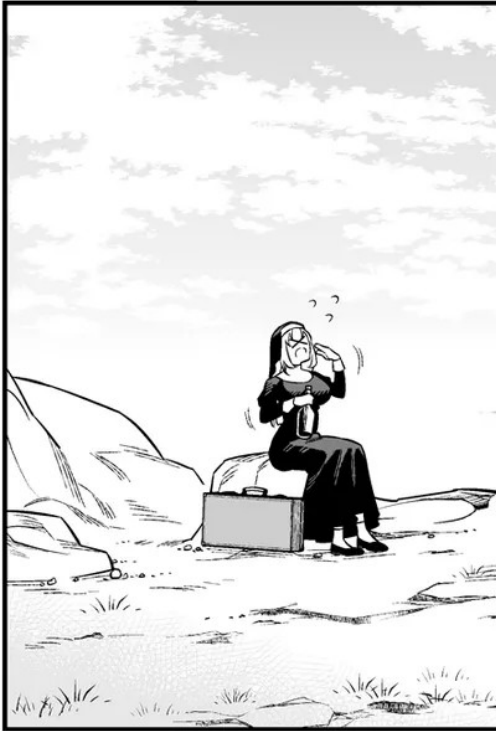
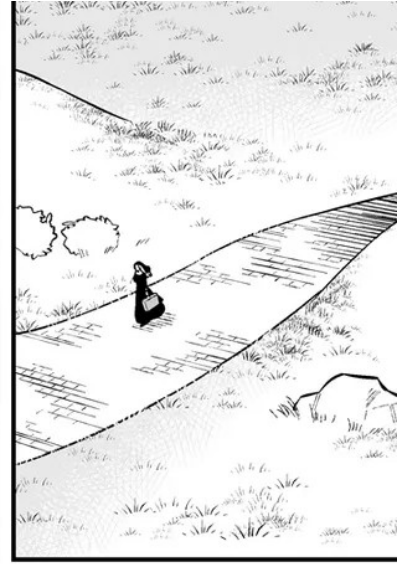
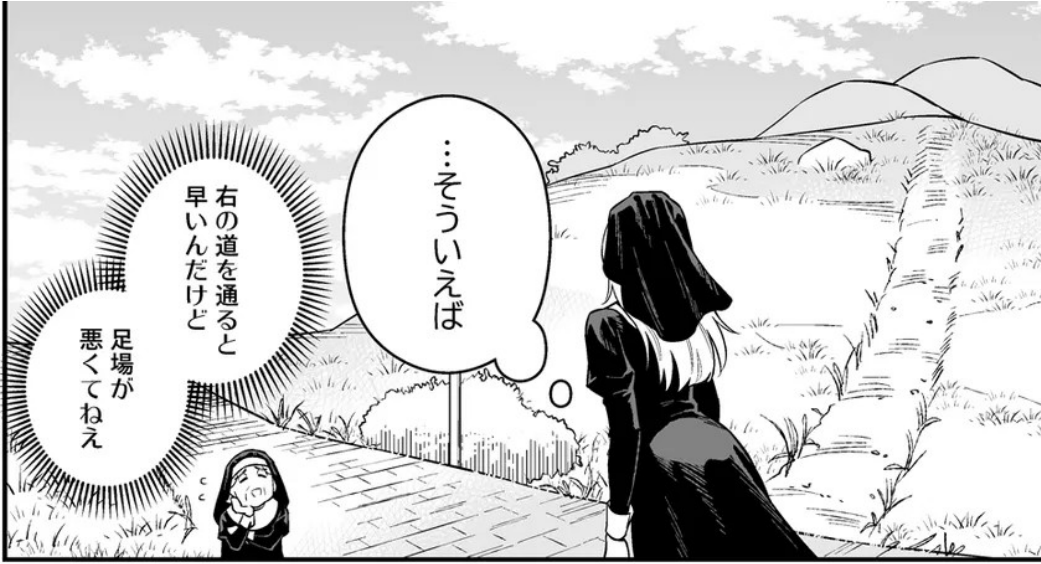
以前は他のシスターと一緒にいたが足を悪くされてしまい

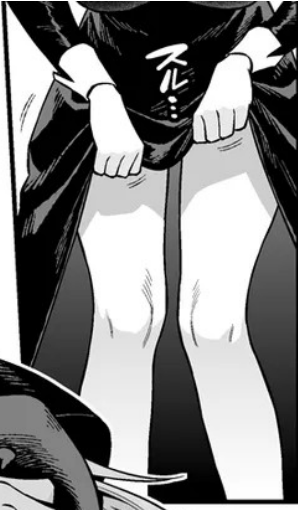
初めて一人で伺うことになりました

今日は隣村の子供たちに勉強を教えに行く日です

膝がねえ どうにもねえ



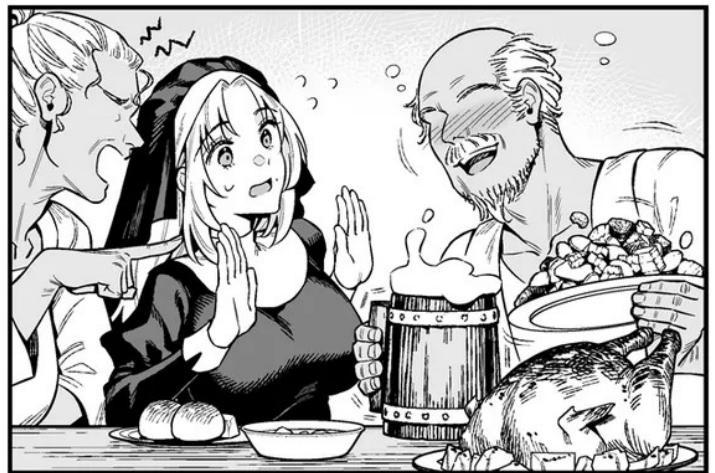
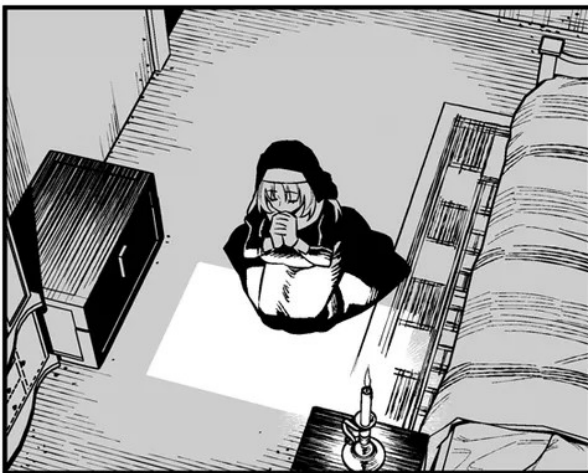




これで  
どうかしら...

少しでも  
元気になってくれると  
いいんですけど...







まあ！

ずいぶん  
大きくなって



私と  
したことが

水分が必要とは言え  
はしたない真似を  
してしまいました…

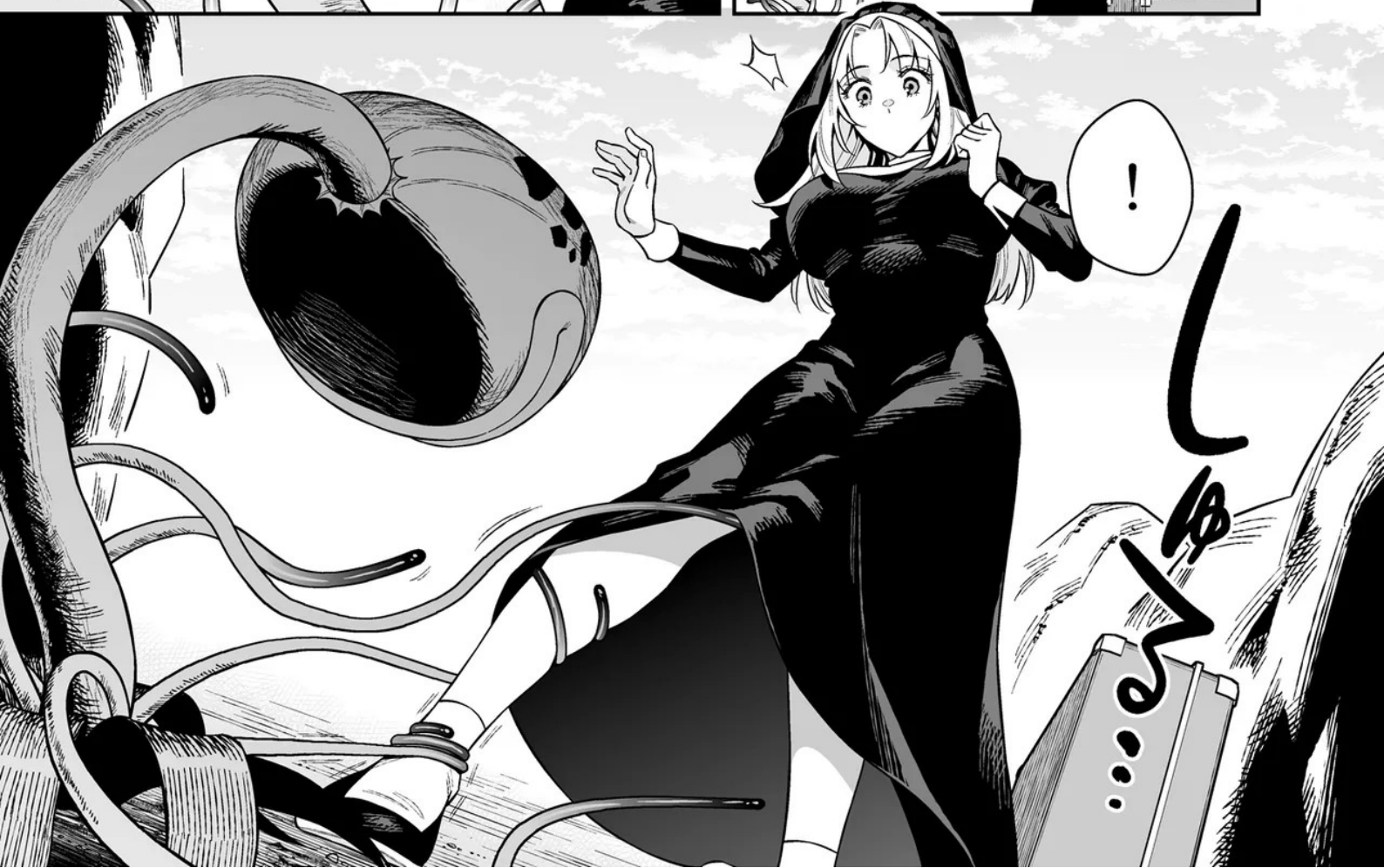


変わった  
模様…

あなたのことは  
“まだらちゃん”と  
呼びましょう



この辺りでは  
見たことのない  
種類の生き物ですね



！

ししし



私  
水を持って  
きました

待って  
ください！



み水じゃ  
だめなんですか…？

そんな…

んんんん…

んんんん…

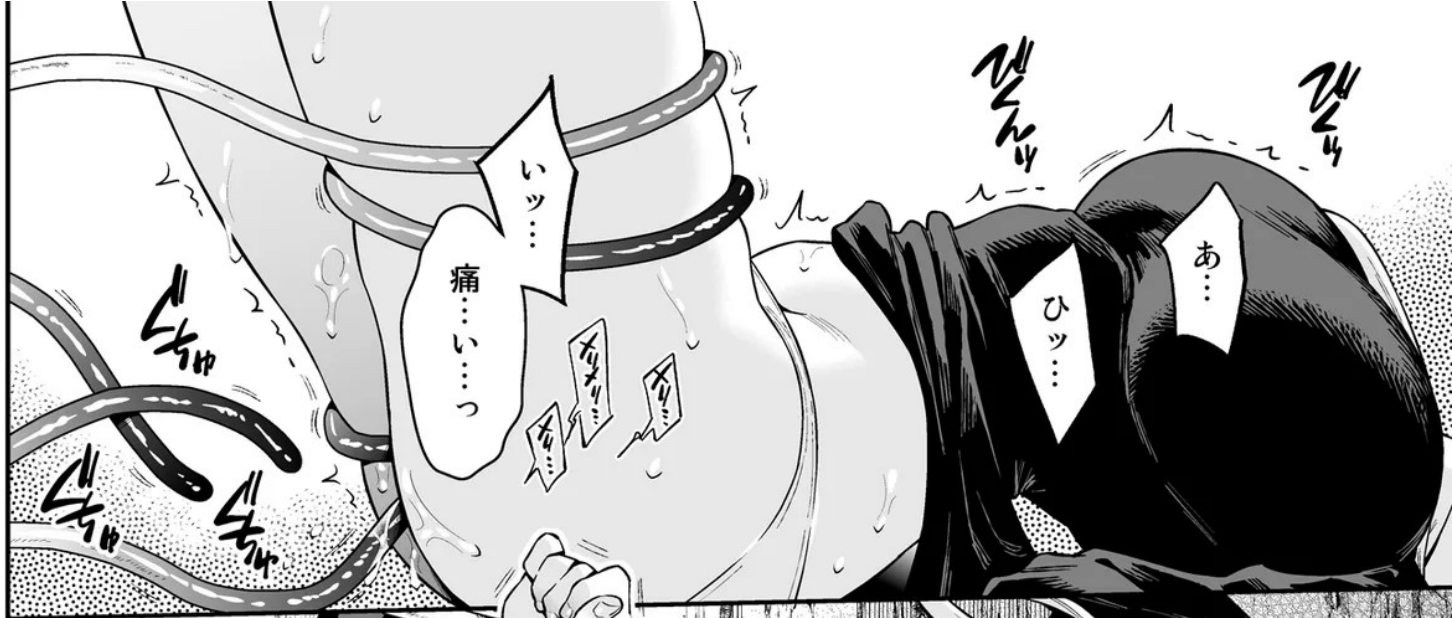
んんんん…

んんんん…











ああ…神よ…

わたしは…

このまま  
死ぬのでしょうか…



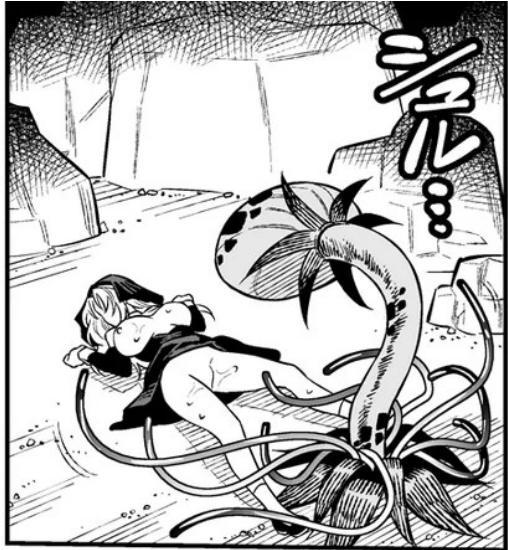
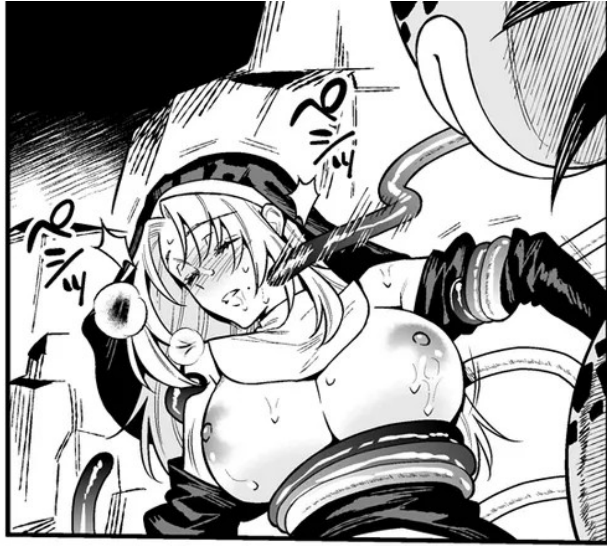
力が…

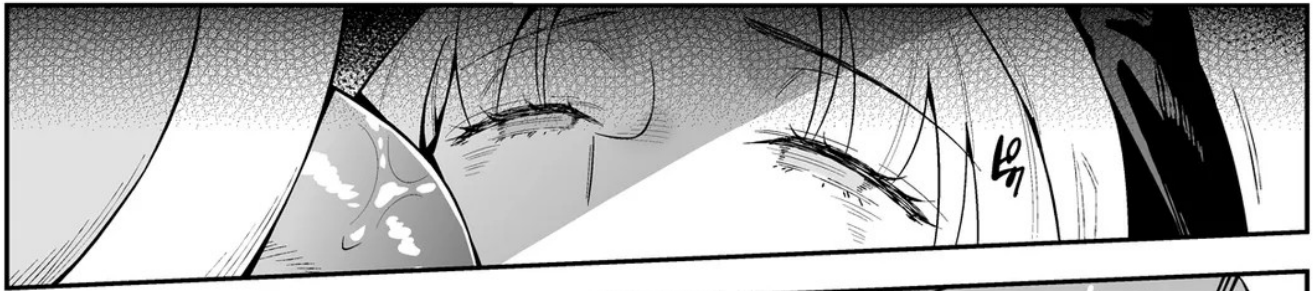
入らない…



もう…

目も開けて  
いられないほど…







口の中が  
甘くべたつく…

まだらちゃんに  
何か…

飲まされてた  
みたいけど…



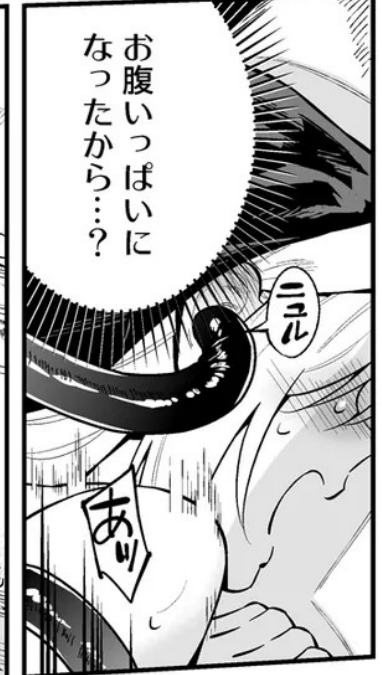
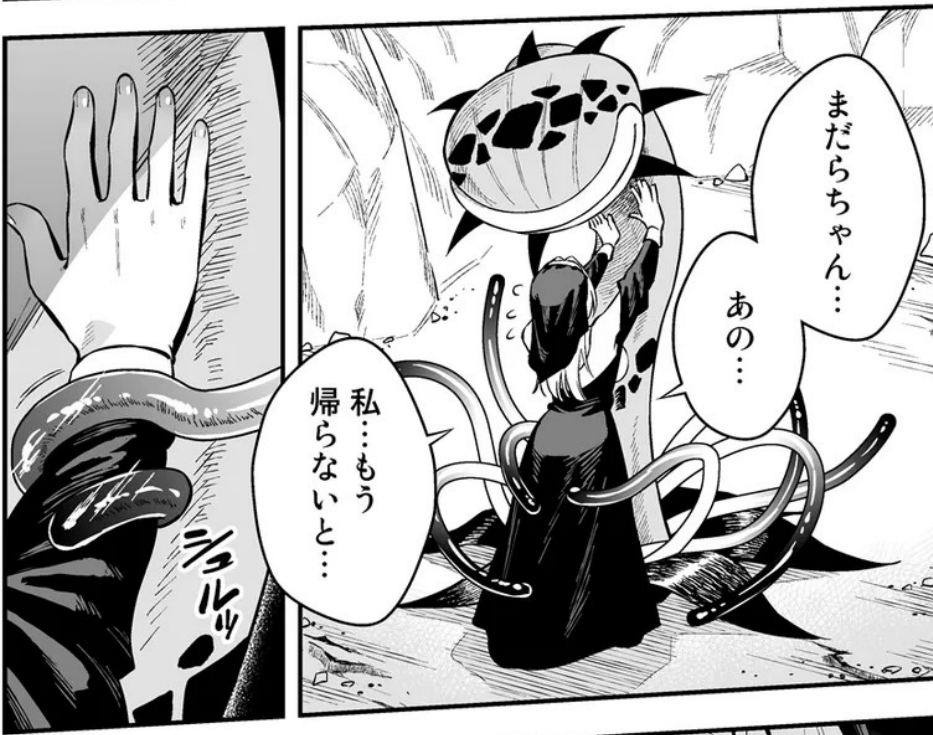
こんなに  
大きくなるなんて…

…おぼろげに

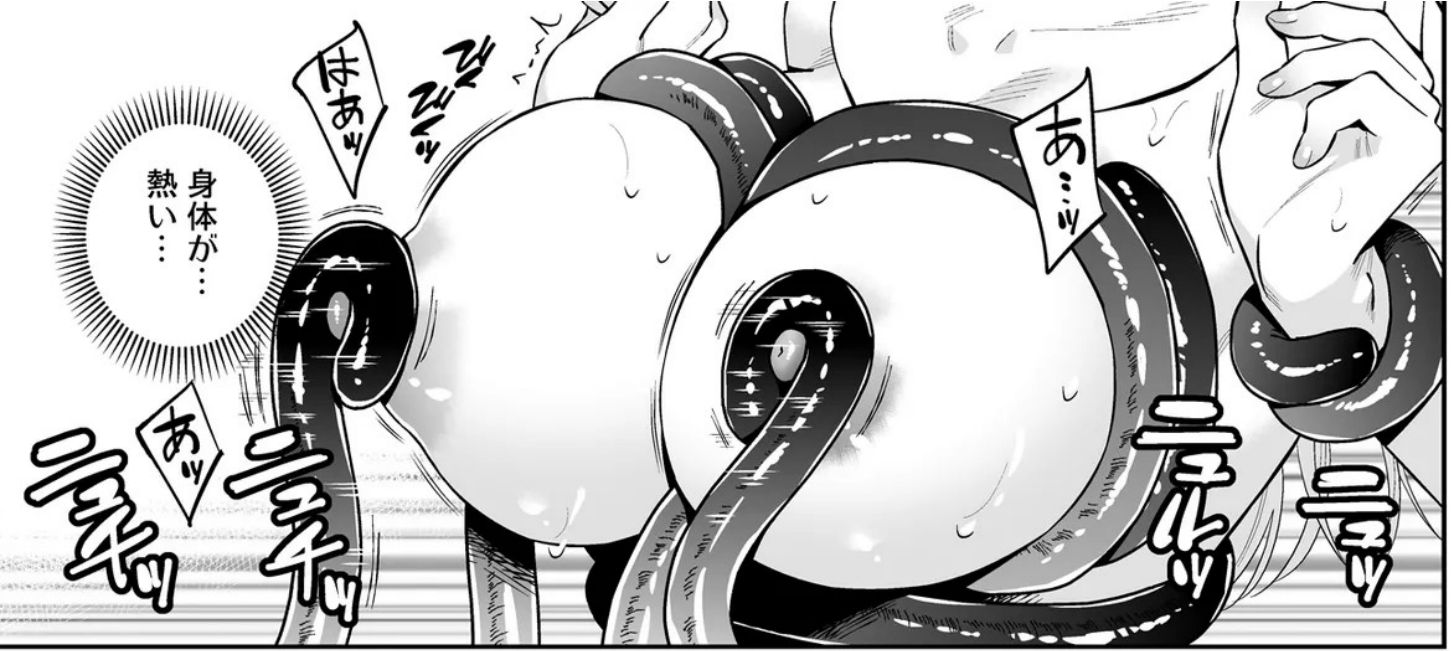
…おぼろげに



…おぼろげに



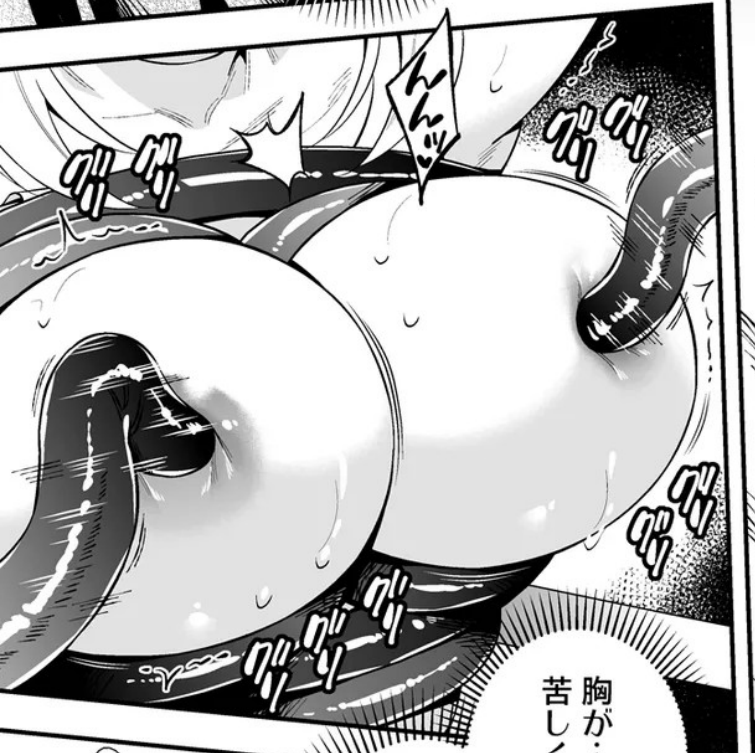






ああ…  
神よ…

どうか  
お許しを…



胸が…  
苦しくて…

張り裂けそう…



いいえ…  
もっとして  
欲しい…!

わたし…  
姦淫の快楽を  
知ってしまいました…

もう言い訳  
できません…



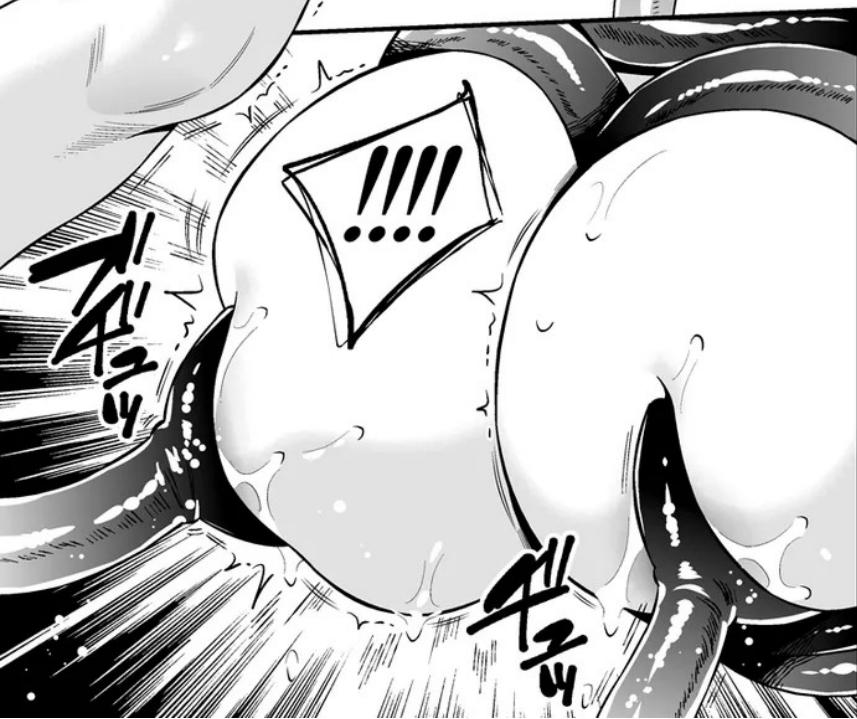
ズッ...

ズッ...

ズッ...

ズッ...

ズッ...



!!!



え...!?

なぜ...!?

私の身体  
どうなって...



すっ…  
吸われてる…ッ

ああッ



私のお乳が…  
まだらちゃんに…ッ

ッ…なに…  
この感覚…



私そのものが…  
流れ出ていく  
みたい…ッ

あ…ッ

グッ…



私のお乳を飲んだ  
まだらちゃんは…

私の子  
なのでは…？

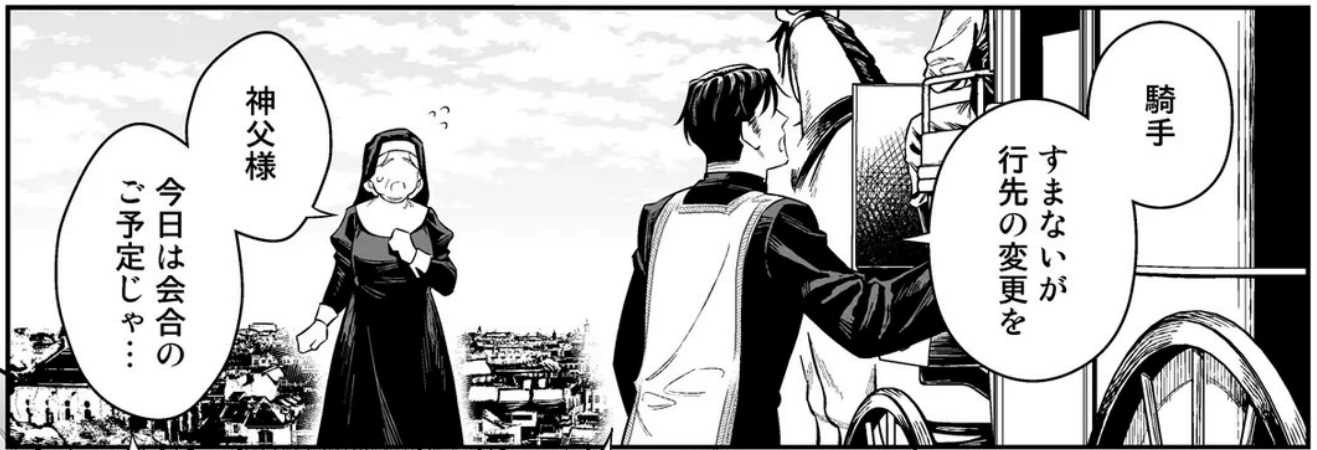
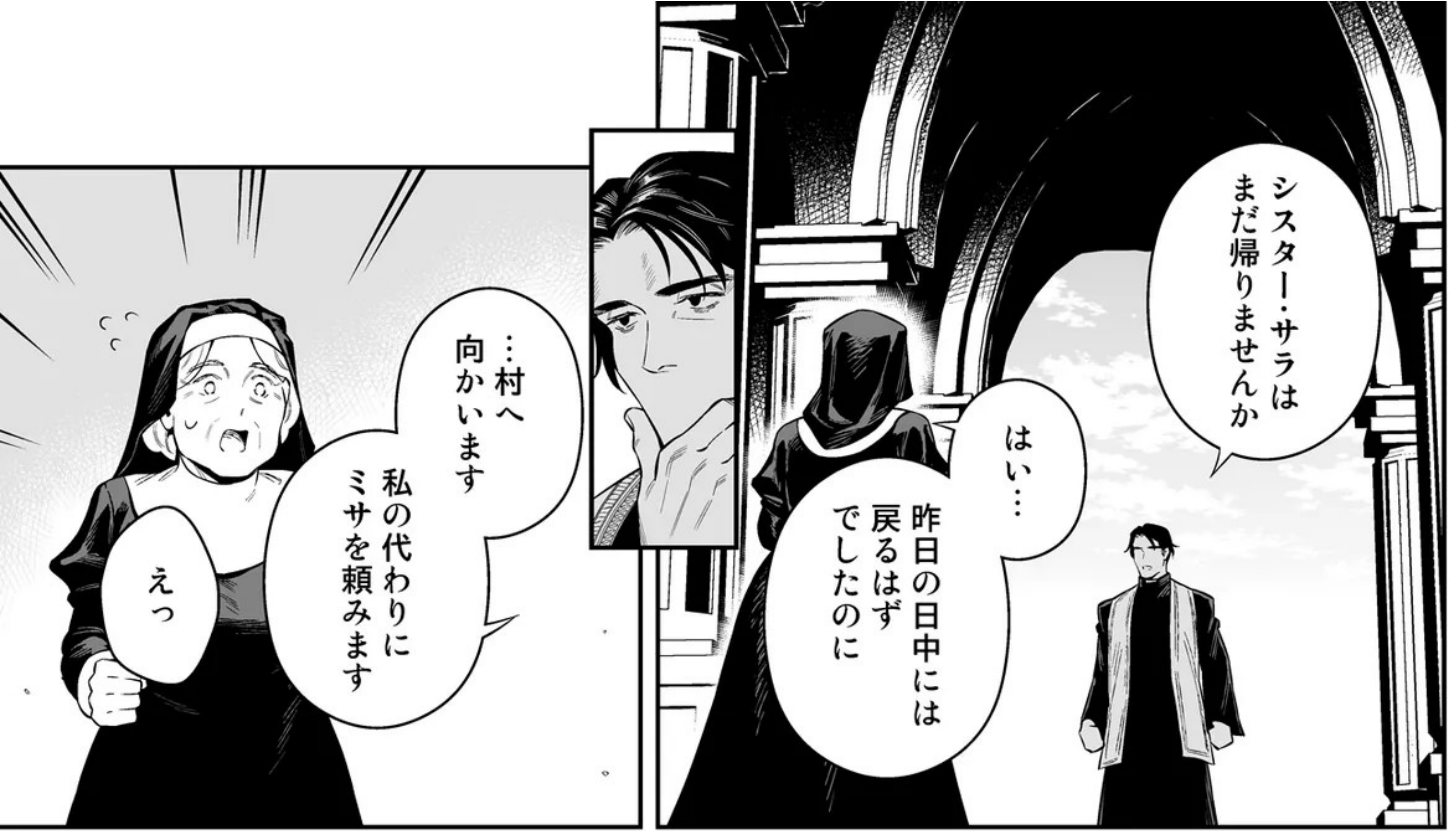
つまり…  
私は…

この子の母に  
なったのでは…？

これは  
姦淫などではなく

尊い愛の行為なのでは







私の帰りを  
待っている  
人がいます

まだらちゃん  
…聞いて

心配しないで…  
お別れでは  
ありません



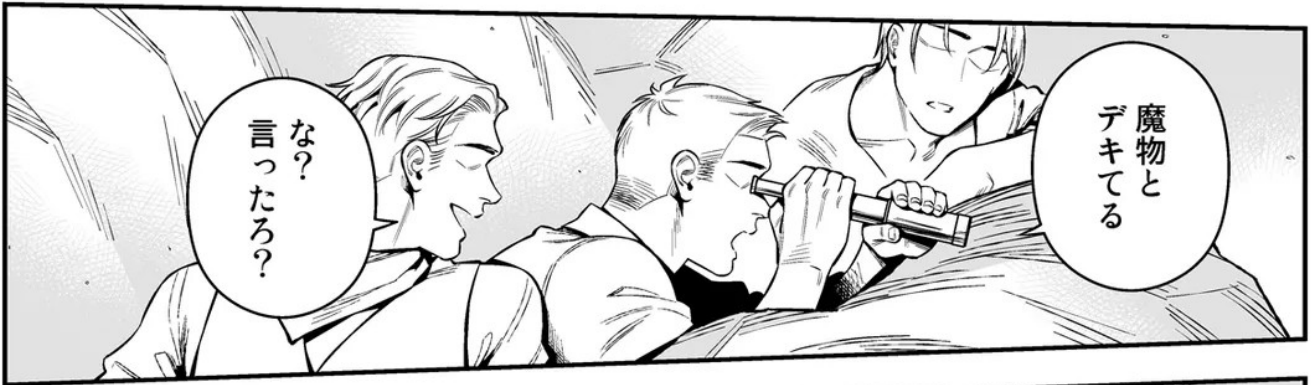
必ず  
迎えに来ます

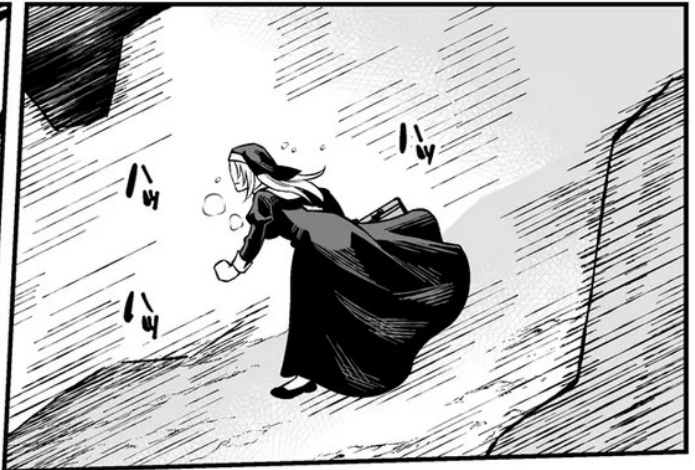
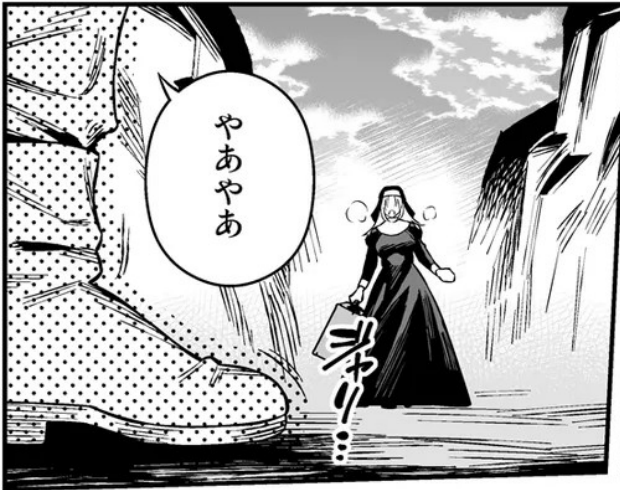
私たち  
家族だもの

あなたが街で  
暮らせるよう  
相談してみます

私一人では  
難しくても…

知恵を募れば  
きっと…







そんな情報は  
初耳だ

ギルドは何を  
しているんです

い...  
いくつかの  
拠点を  
転々として

足取りが  
掴めないとかで...



村の皆も  
用心するように！



街へ  
引き返す

ギルドに  
直談判  
しなければ



おっ お金も  
貴重品も  
持ってません

どうか  
離してください

へ...  
分かって  
ねえな

アンタ自身が  
商品なんだよ





うんま…  
母乳ってこんな  
甘かったか？

前馬車を  
襲った時に  
赤ん坊抱いた  
女がいたろ

あいつの母乳は  
もっと薄味だった



…なんて



なんて  
罪深い人たち



あれか  
ガキを人質にしたら  
大人しく股開いて  
最高だったな〜

母親ってのは  
子供のためなら  
なんでもするからな





ゴゴゴゴ...

なッ...!?

なんだ  
今のは!?



おふッ...!!!

ズルッ...



まだら  
ちやんだ



ぐあッ...!!!

ズルッ...

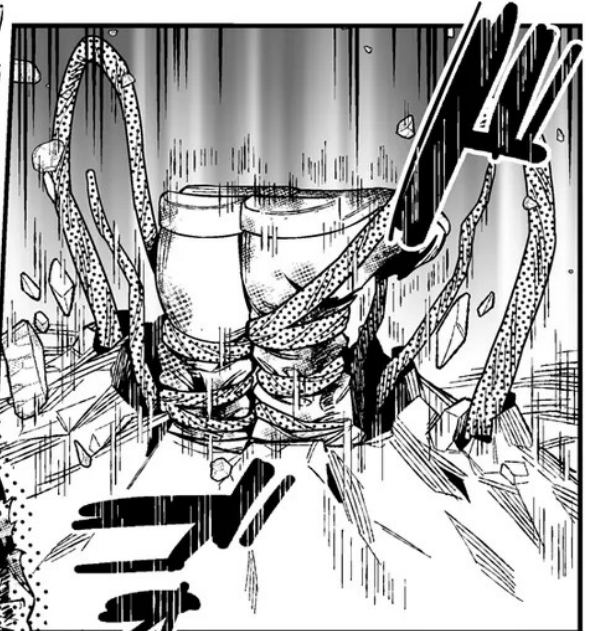


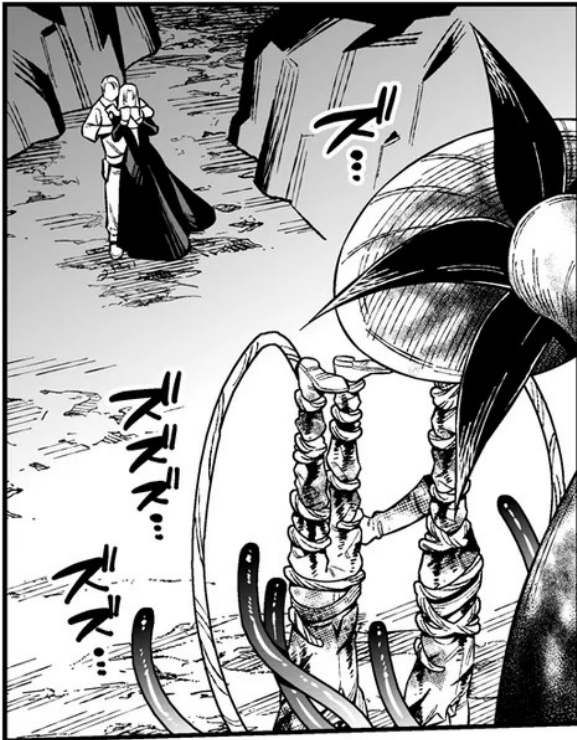
ばかッ  
大声を  
出すな...!

いッ...

てめえが  
指示してんのか!?

まさか  
さっきの魔物か?









シユル

もういいの  
私なら  
大丈夫だから

お願い  
話を聞いて

これ以上  
人を殺めないで

シユル  
シユル  
シユル

まだらちゃん……!



ガ  
ニヤア

シユル



なんてこと…

もう…  
取り返しが…

か…神よ…  
どうかお赦しを…

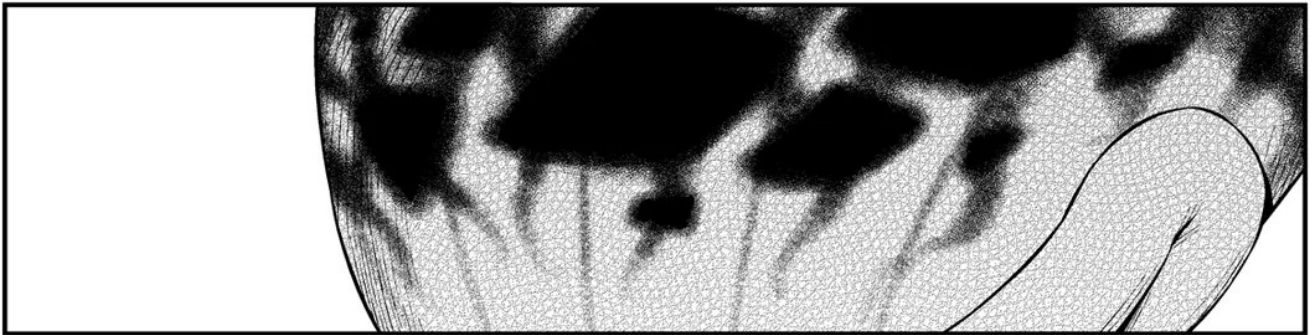


Waa…



あああ…

あ…



それに…

この子は外の  
世界を知らない  
子供だから…



………  
まだらちゃんは  
悪くない…

私を守ろうと  
したただけのもの

子供のしたことは  
親に責任がある

だから…



まだらちゃんには  
分からないかも  
しれないけれど…

命を奪うことは  
とても重たい  
罪なの

あなたの  
家族として…  
母として…

私の命をもって  
あなたの罪を  
償いたい…



…  
まだらちゃん

私の全てを  
吸い尽くして

あの人たちに  
したように





早く…  
私の覚悟が  
揺らがない  
うちに…

神父様…  
修道院のみんな…  
無事に帰れなくて  
ごめんなさい…

ズル…

ズル…



あッ

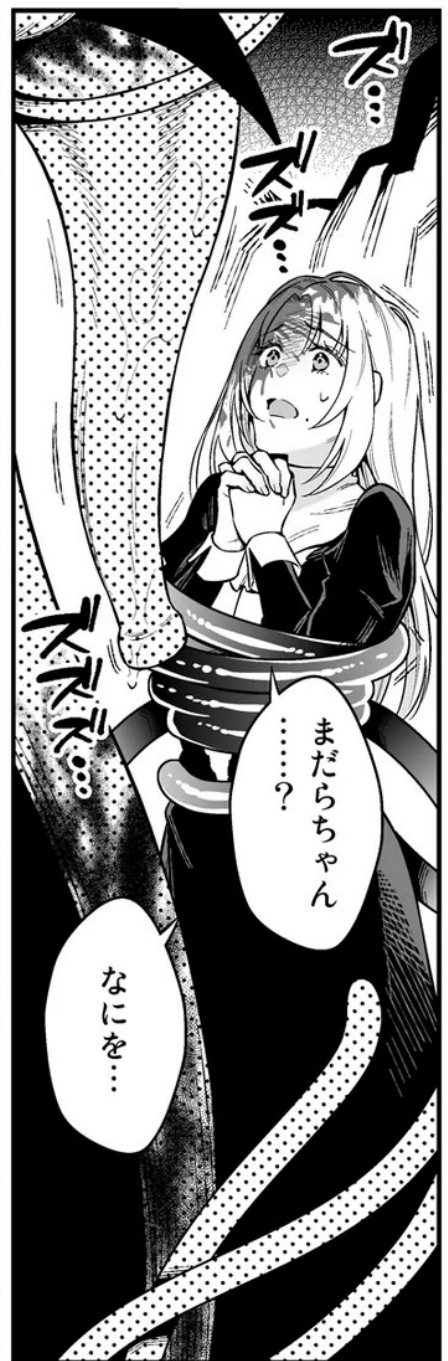
ちゃん



ま  
待って

ズル…

なんで…  
こんなことッ…



まだらちゃん  
……？

なにを…





ありがとう…

まだらちゃんの  
愛を感じる…



わたしが  
苦しめないように  
してくれたのね…

はははははは



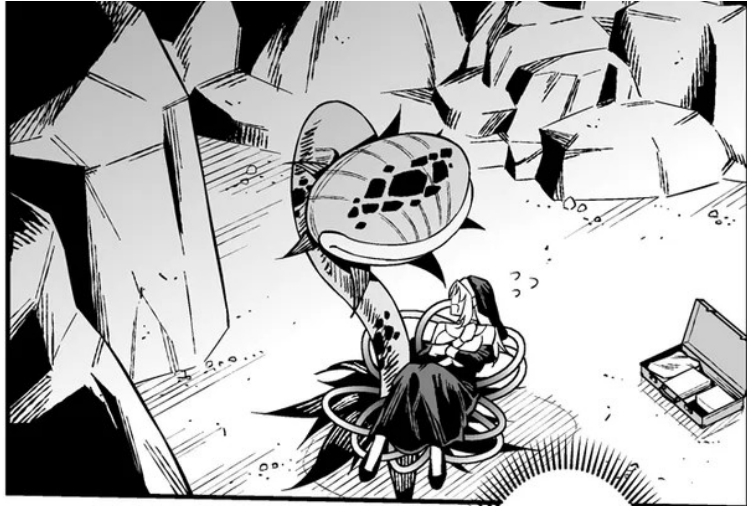
ギルドの方々を  
差し置いて  
休めはしません

神父様…少し  
休まれては…!

それに…

私が帰る時は  
シスター・サラと  
一緒です





早く…

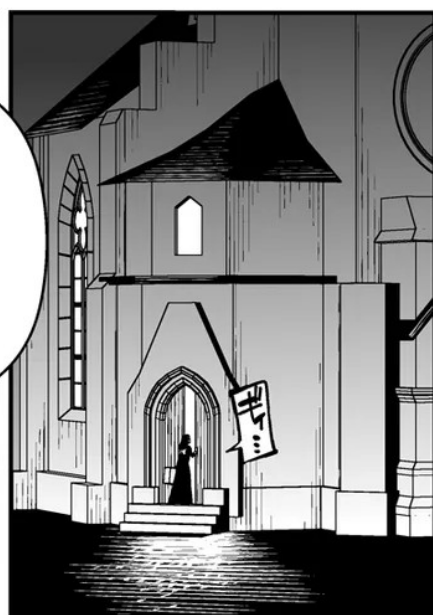
早くここから  
離れなくては…!!



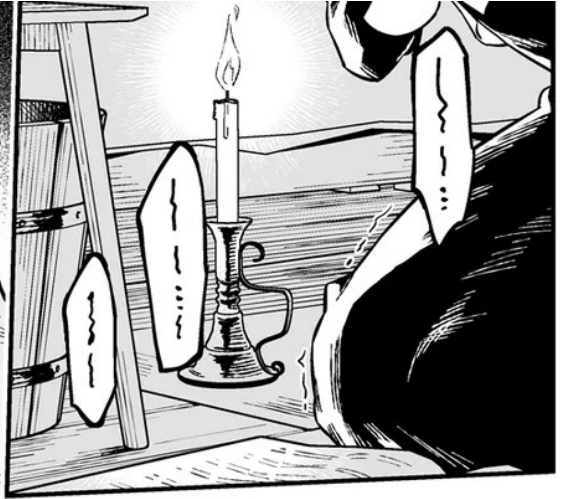
神父様…

ずいぶん  
遅かったですか  
ないですか

シスター・サラ…!?







忘れなきや...  
いけな...  
忘れなきや...  
いけな...  
忘れなきや...  
いけな...

忘れなきや...

神父様!?

ここは  
女子寮なのに

部屋の明かりが  
見えました

まだ  
起きていますね?  
シスター・サラ

何か心に  
抱えているものが  
あるようですが...

よければ告解室で  
私にすべて  
話してみませんか

もちろん  
秘密は守ります

告解室...



なかなか寝付けないだけで…



…体が…その…  
火照ってしまった

急いで帰ってきたから…



いえ…  
そんな  
神父様にお話しするほどのことではありません



…そうですか



いい夢を  
シスター・サラ



落ちて着けるよう  
温かい飲み物を  
用意しました  
これだけでも  
受け取ってください



ここに居るのを  
誰かに見られたら

神父様でも  
咎められて  
しまうのに…



ギィ…

もういない…



…今日の

まだらちゃんとの  
“あれ”は



よほど心配させて  
しまったんですね…

…おいしい

甘くて  
とてもいい香り



姦淫

…そういうものでしょう…

神の教えにおいて  
姦淫は大罪です…

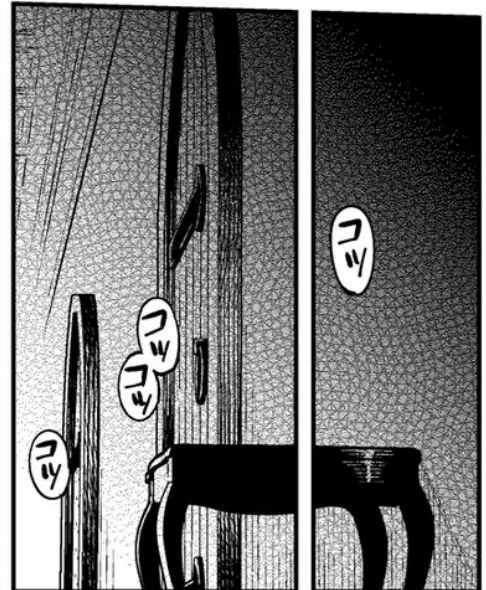
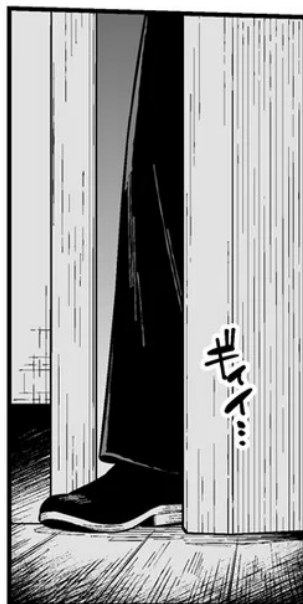
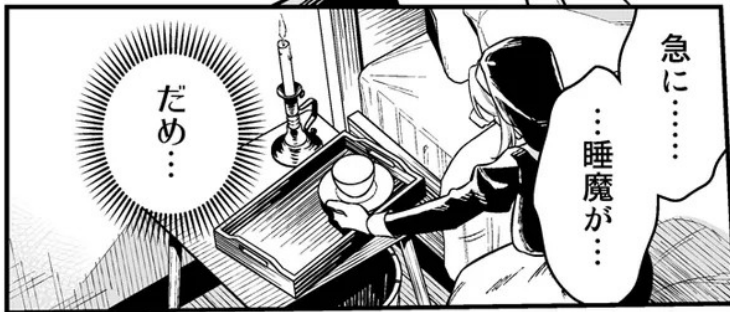
まだらちゃんが  
食事のつもり  
だったとしても…

私にとっては…

ワグン

ワグン

ワグン



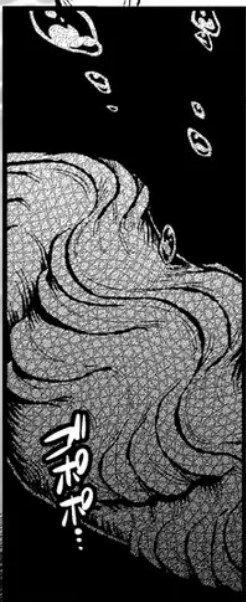


あなたの意識はだんだんと落ちていき...

灰暗い水底の貝の中に囚われました

これからあなたの肉体に何が起きても

意識まで届くことはありません





しかし  
神父として…  
また養父として

あなたの全てを  
把握しておきたい

サ…

サ…



…初めて私に  
嘘をつきましたね

サラ

あなたも  
大人になったという  
ことでしょうか…



隅々まで  
検<sup>もた</sup>めていきますよ



これは…

…!

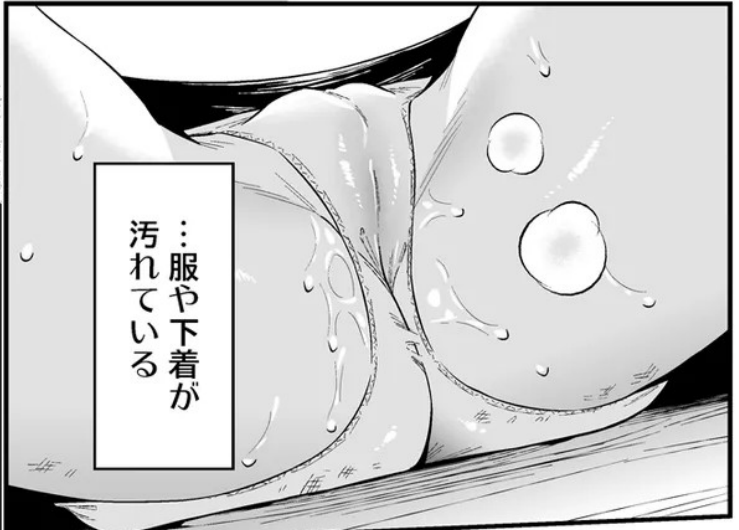


暴漢に  
襲われたか…?

ズル…

包み隠さず  
話してくれたら  
よかったのに…

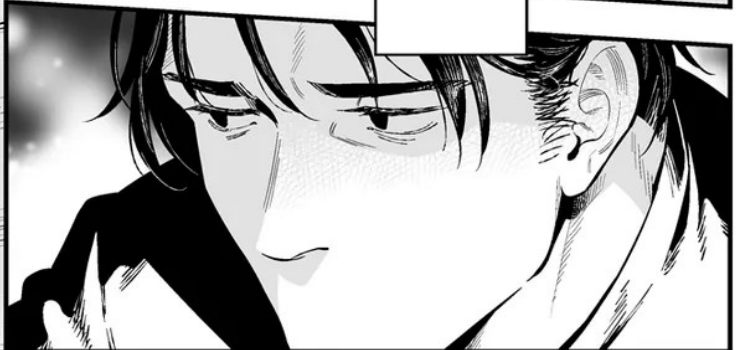
やはり一人で  
行かせるべきでは  
なかった



…服や下着が  
汚れている



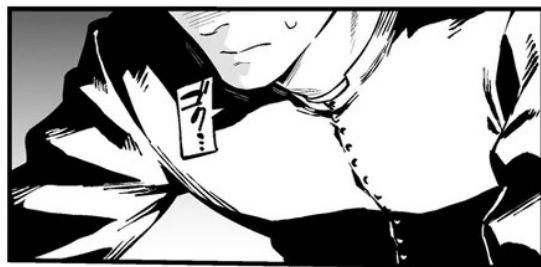
体には  
擦り傷もある…





神よ…

女体に触れる  
罪を犯すことを  
お許しく下さい…



なんて熱さだ…



粘液が  
止めどなく溢れて  
絡みついてくる



やわらかく  
解れていて

何の抵抗もなく  
指の侵入を許す…





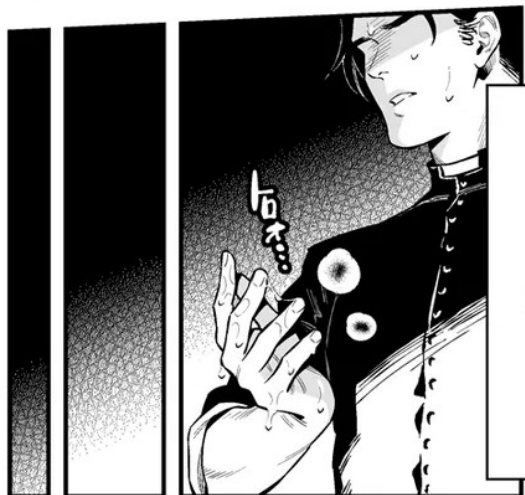
ハッ...ウッ...ウッ

ハッ...ウッ...ウッ

ウッ

ウッ

ウッ



私の知っているサラはどこにもいない...

...もう



ハッ

ウッ

ウッ

ウッ

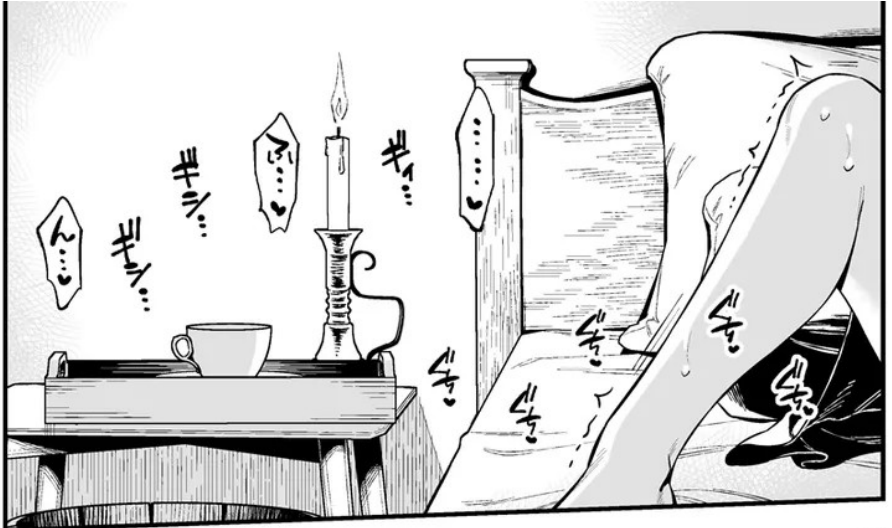
ハッ

ウッ

ハッ

ウッ

ウッ



どうしようもなく  
どす黒い感情に  
塗り潰されそうになる



今すぐ  
屠つてやりたい...



サヲを手籠めに  
するよな外道に

救いなど  
ありはしない

きゅんきゅん





は……は

は……は……は……

は……は……

あああ……ああ……

は……は……

は……は……

は……は……

は……は……

は……は……

は……は……

だめだ……  
それだけは……

私まで外道に  
身を落としてしまう……

……いや……  
薬を盛ってまで  
姦淫してる私も

同じ穴の貉だ

は……は……

は……は……

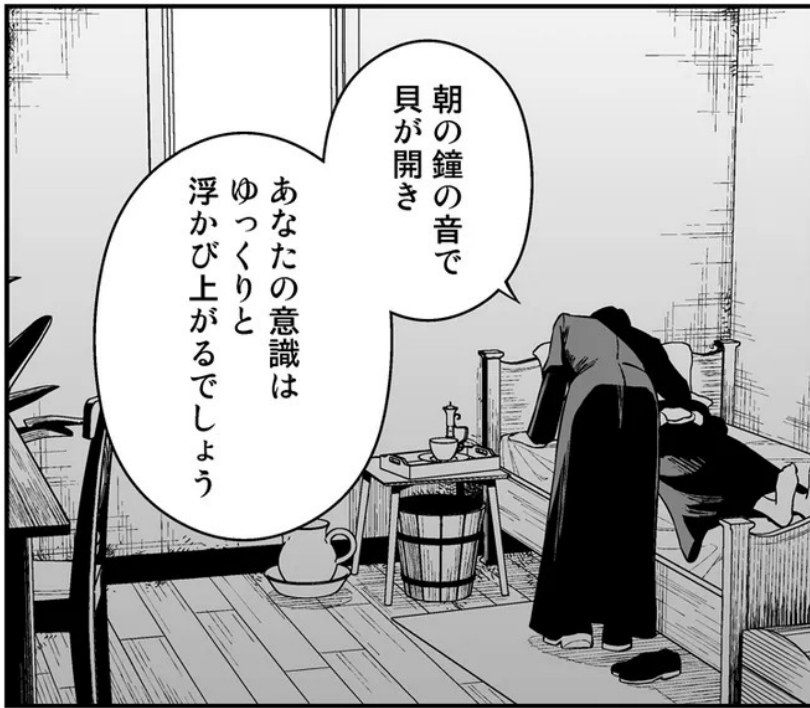
は……は……

は……は……

は……は……

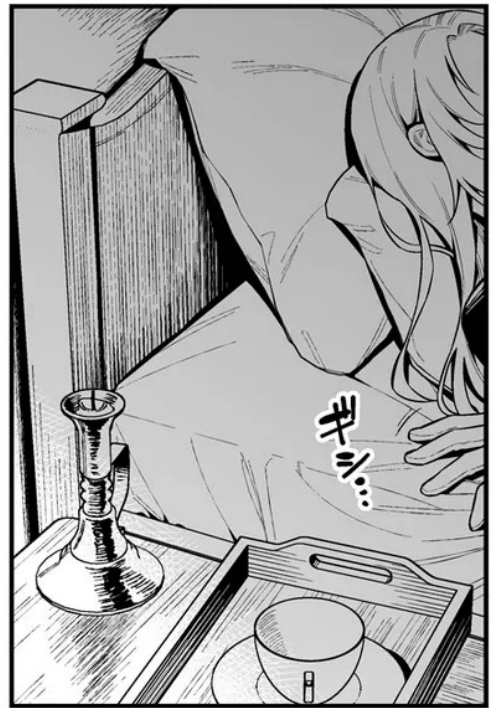
は……は……

は……は……



朝の鐘の音で  
貝が開き

あなたの意識は  
ゆっくりと  
浮かび上がるでしょう



ザツ...



今日のことは  
全て夢と  
思っ  
て  
忘れな  
さい

新しい一日に  
神のご加護が  
あらんことを

